



i-Repo Scan Powered by SCANDIT

導入事例

ハンディスキャナによる検品を上回る作業性
見落としもほぼゼロに激減し、顧客の信頼もアップ

(株式会社 PAL)

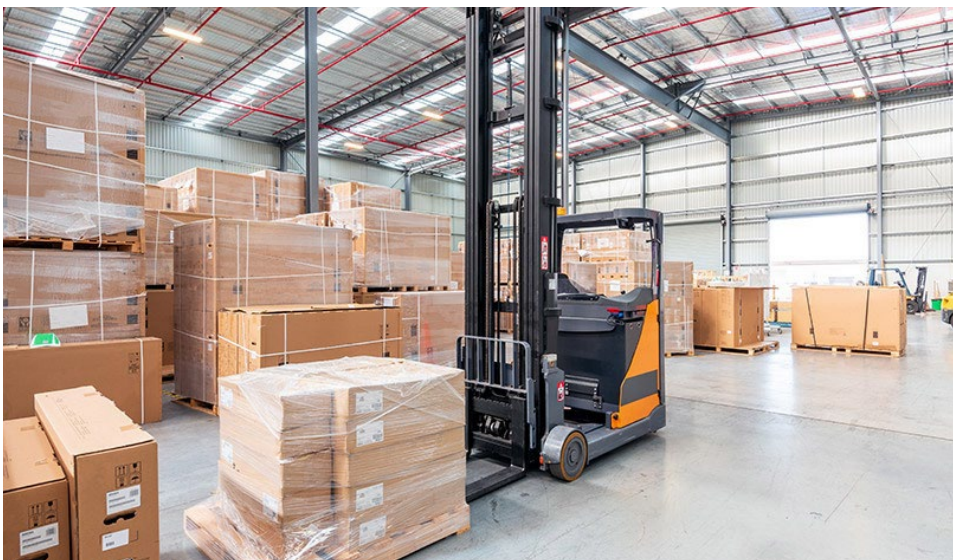
ハンディスキャナによる検品を上回る作業性 見落としもほぼゼロに激減し、顧客の信頼もアップ

株式会社 PAL (コンサルティング・ロジックエンジニアリング)



2000年に設立され、物流のプロフェッショナルとして成長を続ける株式会社PAL。モノの流れを効率化し、企業の成長をサポートすることを使命としている。システム構築からオペレーションまでの物流ソリューションをワンチームで提供し、倉庫運営やDX推進においても先進的な技術を駆使。デジタル化が進む社会で、PALは顧客の物流課題に向き合い、最適な自動化とコンサルティングを提案し続けてきた。

同社では総合スーパーの中間倉庫での食品の検品作業にバーコードを利用してコンテナの仕分けを行ってきたが、目視による検品でミスが発生していた。この課題を解決し物流の効率化と検品ミスの削減を図るべくi-Repo Scanを導入。店舗ごとの仕分け作業を効率化することに成功した。



USER'S VOICE



オペレーション
エンジニアリング事業部
関東運営部

金子 由昌 氏

総合スーパー事業を全国展開されているお客様の、物流の中間倉庫として弊社が商品の仕分・出荷などを行っています。取り扱っている商品は食品全般ですが、その中でもi-Repo Scanを導入したのは「水産・畜産・デリカ」の3食品の検品現場です。

「水産・畜産・デリカ」の商品はお客様のシステム設計の都合上、検品にハンディスキャナが使えず、コンテナを1つずつ目視で検品していく方法を探っていました。そのため、この現場では商品事故(誤納品や未配達)が多発。目視だと見落としが起きやすく、例えばAセンター向けのカゴ台車にBセンター向けのコンテナが混ざっていても気づかずに出荷してしまうことがありました。そういったミスが毎日10件ほど発生していました。

お客様から強く改善を求められたことがきっかけとなり、目視による検品をやめて新たなシステムを導入する動きが生まれました。導入検討フェーズでは各社から製品説明をお聞きし、デモなども拝見しながら機能を確認。重要ポイントをクリアし、コスト的にも優位性のあったi-Repo Scanを導入することに決めました。

NEXT

作業時間や入力ミスの削減に成功!
i-Reporterでさらなる顧客満足度の実現へ

抱えていた課題・導入後の効果・今後の展望...詳細は次ページへ ▶

効果
導入前

顧客システムの都合上
仕分けた食品の検品の際に
目視作業しかできずミスが多発していた

目視による検品は時間がかかるだけでなく
日本語の読めない外国人作業者には
大きな負担となっていた

システムを導入したくても
難しい操作が必要なものは現場での運用が懸念された

i-Reporter
導入後

i-Repo Scan導入で検品ミスがほぼゼロに!
毎月発生していた事故代金30万円を削減

一括読み取りのi-Repo Scanなら
カゴ台車1台あたり1分かかっていた作業が数秒で完了

端末で一括読み取りするだけの簡単操作は
操作を一度見るだけで誰でも習得可能



オペレーション
エンジニアリング事業部
関東運営部
金子由昌氏

現場の声

アルバイトスタッフをメインに検品作業をしています。

日本人スタッフであればラベルの店名を見て間違いにも気づきやすいのですが、**従業員の約4割を占める外国人スタッフは番号を見て店舗を判別しています。数字だと読み違いが起きやすく、商品事故につながっていました。**

i-Repo Scan導入後は、**誤って仕分けされたコンテナだけをすぐに見つけられるようになり、正確性の問題が大きく改善されました。**積まれたコンテナを端末で映すと、**画面上で誤ったコンテナにだけ赤の×印が表示**されます。いわば「**誤り分けの見える化**」です。この表示機能は拡張現実(AR)の技術を利用してカスタマイズしたもので、導入検討フェーズに私からの要望としてシムトップスにお伝えし、実現したものです。

こうして「水産・畜産・デリカ」部門の**商品事故は、ほぼゼロに。削減された事故代金はひと月におよそ30万円**にも上ります。

現場の声

カゴ台車1台に20枚ほど積載されるコンテナのラベルを1枚ずつスキャンしていく作業に意外と時間がかかり、1台あたり1分ほど要します。

i-Repo Scanならカゴ台車に積まれた複数のコンテナに**並んだラベルをまとめて映し、一括で読み取るだけで検品が完了。わずか数秒ほどの作業へと劇的にスピードアップ**しました。

作業効率が上がったことで、**1日あたり約2時間、月に60時間分の工数を削減**できており、人件費の削減はもちろん他部署の作業に人員を回すこともできるようになりました。i-Repo Scanの導入は、他の部署からも歓迎されている状況です。

i-Repo Scan 導入の経緯と今後の展望

i-Repo Scan導入で「作業性」と「正確性」が大きく向上
他の現場でも導入したいという声!

弊社では多発していた商品事故の改善を目的に、新システム導入の運びとなりました。作業の効率アップや時間短縮ができるシステムであることを重要ポイントに、数社のシステムをピックアップした中からi-Repo Scanの導入を決めました。「水産・畜産・デリカ」部門に計6台の端末を導入し、検品作業が「作業性」と「正確性」で大きく向上するという成果が得られました。

作業が効率化し正確になっただけでなく、帳票管理においても大きな効果がありました。i-Reporter導入後は、データを元にお客様と会話ができるようになったからです。例えば、商品が届いていないといった問い合わせが店舗からあった場合は、クラウドに上がっている検品データをエビデンスに、出荷した記録をご提出しています。これにより、自信をもって「出荷しました」と言いやすくなり、システムで信憑性を高めたことで、お客様からはお褒めの言葉をいただきました。お客様から伝わってくる信頼が大きく高まったと感じています。

他の現場でもi-Repo Scanを導入したいという話が、すでに出ています。また、当社では他のお客様の業務にも携わっていき、そちらでの活用も考えられます。今もハンディスキャナを使っている現場がたくさんあり、できればハンディスキャナを完全にi-Repo Scanへ置き換えていきたい。それにはお客様のシステムと連携する必要がありますので、お客様だけでなく、関連する各社にも協力いただいて進めていけたらと検討しているところです。

将来的にはOCR対応となることにも期待しています。ハンディスキャナも使っていない現場ではラベルにバーコードもないため、文字を認識してくれるシステムだと導入しやすいからです。i-Repo Scanにはもっと有効活用できる可能性がありますので、さらなる業務改善につなげたいと考えています。